

農村計画学特論 (2単位)

担当者氏名 中村貴彦

◆学習・教育目標

農業・農村がもつ多面的機能の根幹となる水と土とバイオマスといった農村資源に着目し、土地利用計画、水資源利用や水環境計画、有機性廃棄物などの未利用資源利用、生態系保全といった内容についてその理念や計画論について講義する。公務員採用試験受験のための基礎知識を習得すること、あるいは地域プランナーとしての素養を身につけることを到達目標とする。なお、この科目は必要に応じてバイリンガル（日本語と英語）で実施する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

多面的機能 土地利用計画 バイオマス 水環境計画
 未利用資源 資源循環 水質 _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	国土開発と農村（第1～3週）	・農村の成り立ち、国土開発の歴史、について修得。	
2	土地利用計画（第4週）	・農振法と都市計画法について修得。	
3	農村の多面的機能（第5～6週）	・農業農村農地のもつ多面的機能、生態系サービスについて修得。	参考書および配付資料を熟読しておくこと
4	日本農業の抱える問題（第7週）	・日本農業の問題と活性化策について修得	農村地域の振興は、農村のもつ多面的機能の発揮につながる。そのために必要となる地域資源利用、農村生態系、物質循環機能の維持、などの機能と計画論について理解してもらう。
5	農業農村整備事業（第8週）	・農業農村整備事業、公共事業について修得	
7	自然環境保全機能（第9～10週）	・自然生態系、生物多様性、環境との調和への配慮について修得。	
8	水環境保全機能（第11～13週）	・集落排水、下水道、水処理システムについて修得。	
9	物質循環系維持機能（第14～15週）	・バイオマス利活用、循環型社会について修得。	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

資料を配付する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

農村計画学／農業農村工学会（編）／農業農村工学会（2003年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート 60%、ディスカッション 20%、小テスト 20%で評価する

◆その他受講上の注意事項

講義内容に関して質問がある場合は、まずメールしてください（中村：ntaka@nodai.ac.jp）